



## 愛の木 が 村を幸せにした

心  
あ  
っ  
た  
か  
ニ  
ュ  
ー  
ス

NMCAA  
NO3

インドのラージャスターン州にあるピプラントリの村では、素晴らしい取り組みが続けられています。ことの始まりは2006年。村長のShyam Sundar Palwar氏が娘を亡くした後、彼女を惜しんで111本の木を植えたことがきっかけでした。この娘のために木を植えるというアイデアがその後村人たちに受け継がれ、村に女の子が生まれる度に111本の木を植えるという新しい伝統が生まれたのです。女性の社会的地位がまだまだ低く、生まれてすぐの女の赤ん坊が殺されてしまうこともあるインドで、こういう形で娘の誕生を祝福するということは珍しいことです。一緒に木を植え、世話をすることで、家族、そして地域のつながりも強まったといえます。ピプラントリではすでに4万本の木が植えられ、村は緑溢れるオアシスへと姿を変えました。

フルーツが生る木の根元には、動物たちから木を守るためにアロエを植えます。

フルーツもアロエも、売ることができ資源です。村はこの取り組みと共に自給経済へと切り替えることで、経済的にも豊かになりました。フルーツなどを販売してできた資金は、まずは子どもたちの養育費や教育費にあてられるそうです。

子どもたちにも、地球にも優しいアイデアですね！亡くなった娘のために植えた木々が、生まれてきた子どもたちを祝い、村の自然環境を豊かし、地域経済にも発展と豊かさをもたらしました。見習うべき、素敵なプロジェクトです。

(イミシンより)

### 話 電車でのほっこり感動

電車乗ったら先生に連れられた赤い帽子の幼稚園児？がいつぱい居て、横にいた女の子に「おしごとなの？つかれた？」って聞かれてほっこりした。お姉さん疲れぶつとんだよ！

電車で、詰めたらもう一人座れるのに、．．．的な絶妙な隙間をみながら開けて座ってる座席の端に、

サングラスかけたちよつといかつそうなお姉さんが座ったんやけど、その人が目の前のおじいちゃんに座席譲ってほっこり。その後みんなが少ずつ詰めてお姉さんも座れてまたほっこり。日本最高。NAVERより

### 編集後記

女性の地位が低い地域であっても、村長さんにとっては、愛する子供への行為だったのでしょう。受け入れる村の人も性別じゃない子供を愛する同じ想いがあつたのですね。伝統にまでなるのですから。心が豊かな村には、幸せもやってくるようです。優しい心と自然を守ることは、なにかつながらあります。優しい気持ち、地球さんにも喜ぶということではないでしょうか